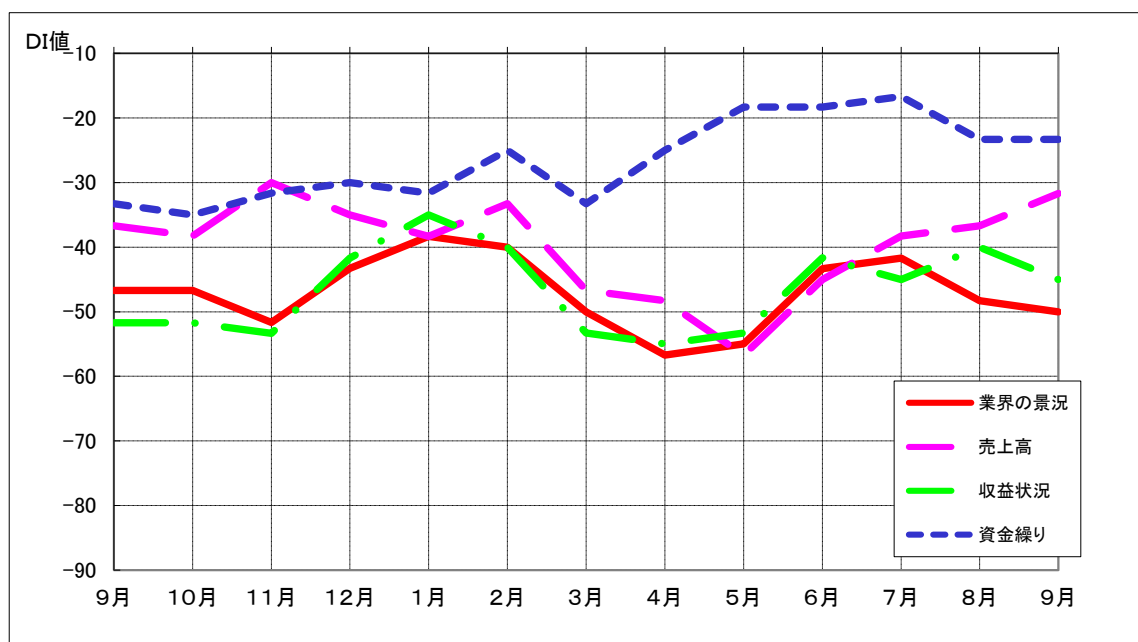


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値 平成22年9月～平成23年9月

単位:ポイント



	H22				H23								
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
業界の景況	-46.7	-46.7	-51.7	-43.3	-38.3	-40.0	-50.0	-56.7	-55.0	-43.3	-41.7	-48.3	-50.0
売上高	-36.7	-38.3	-30.0	-35.0	-38.3	-33.3	-46.7	-48.3	-56.7	-45.0	-38.3	-36.7	-31.7
収益状況	-51.7	-51.7	-53.3	-41.7	-35.0	-40.0	-53.3	-55.0	-53.3	-41.7	-45.0	-40.0	-45.0
資金繰り	-33.3	-35.0	-31.7	-30.0	-31.7	-25.0	-33.3	-25.0	-18.3	-18.3	-16.7	-23.3	-23.3

○9月のDI値は前年同月に比べ、3項目が改善した。「売上高」DI値は5ポイント、「収益状況」DI値は6.7ポイント、「資金繰り」DI値は10ポイント、それぞれ改善した。一方、「業界の景況」DI値は3.3ポイント悪化した。また、前月比で見ると「業界の景況」は1.7ポイント、「収益状況」は5ポイント悪化し、「売上高」は5ポイント改善し、「資金繰り」は前月と同値であった。製造業では受注の減少、非製造業では売上高の減少が根強く残っている。一部緩やかに回復傾向に向かっている業種があるものの、総体としては長引く景気の低迷や円高の高止まりにより先行きを不安視する声が依然として高い。

○組合の特記事項からは、長引く円高や景気の低迷により厳しい状況を憂慮する声が出ている。製造業では、鉄鋼・金属製造業を中心に、受注量の減少によって厳しい経営環境が続いているとの声がある。非製造業では、サービス業において、円高の影響より東日本大震災や原発事故による客先の業務廃止、業況悪化による影響が大きいという声が出ている。また行政庁・中央会に対する要望事項として、総額表示方式の見直しや、公共工事における入札制度の見直しを望む声があった。